

研究主任（情報・算数）

- 1 研究主題 「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」
ー 学び合い認め合い高め合う学習活動を目指して ー

2 育てたい力

◆表現力

- 伝えたい内容や相手に応じて表現方法を選択し、資料を活用するなどして、自分の思いや考えを的確に表現することができる。
- 思いやりの気持ちを大切にし、相手の立場を考えて表現することができる。

◆コミュニケーション力

- 自分の考えを持って相手の話を聞き、質問や意見、感想を伝え合うことができる。
- 相手の話を聞いてよりよい考え方や新しい考え方に気づき、互いに向上しようとすることができる。

3 研究の視点と手だて

〔視点1〕 情報活用能力の育成を意図した学習活動の工夫

- 情報モラルの学習を通して情報発信の責任についての理解を深めさせ、相手の立場を考えた表現ができるようにする。
- 複数の異なる意見を情報発信者の意図を考えながら聞き、情報の正誤や善悪を的確に判断して他者とコミュニケーションできるようにする。

〔視点2〕 問題意識や自分の考えを明確に持って学び合う場の設定の工夫

- 情報モラルの学習では児童にとって関心の高い携帯電話の問題を取り上げ、自分の考えを明確に持って話し合いに参加できるようにし、聞く力・話す力・話し合う力を高める。
- 算数では自力解決後の練り合いを重視し、ペアやグループ、全体での意見・感想の交流や発表の機会を意図的に設定して表現力を高めるとともに、自作の問題を解き合う活動を設定して、児童同士の学び合いを深める。

研究主任（情報・算数）成果と課題

〔視点１〕 情報活用能力の育成を意図した学習活動の工夫

○情報教育主任としての立場から，昨年度に引き続き５学年の全学級で情報モラルの授業を実践した。この学習を通して，児童に情報発信の責任についての理解を深めさせ，思いやりの気持ちを大切に，相手の立場を考えた表現の大切さに気付かせることができたと考える。

▲社会の情報化が急速に進展していく中，平成２３年度から全面実施される新学習指導要領においても，児童の情報活用能力の育成がこれまで以上に重視されている。特に情報化の影の部分に対応するため，道徳においては発達段階に応じた情報モラルの取り扱いが明記された。今後は，各学級で担任が情報モラルを指導できるように支援していきたい。

〔視点２〕 問題意識や自分の考えを明確に持って話し合う場の設定の工夫

○情報モラルの実践では，児童の関心が高く身近な携帯電話について取り上げたことで，問題意識を高めることができた。また，携帯電話のプラス面とマイナス面の相反する複数の情報を与えたことで，児童のクリティカルな思考・判断を促すことができた。さらに，携帯電話使用の是非についてワークシートに書かせることで自分の考えを明確にし，ペアや全体の場で考えを交流して情報モラルの向上を図ることができた。

○算数の実践では，問題作りから答え合わせまで児童主体で学習を進めたことで，予想以上に学習意欲を高めることができた。また，出題の意図を正確に伝えるため，文章や図，イラスト等に工夫が見られ，数学的な思考力・表現力を向上させることにつながった。さらに，答え合わせで自分の考えを友達に分かりやすく説明したり，出題者が解答者に解法のヒントを出したりする活動を通して，児童同士の知的なコミュニケーションが活性化し，学び合いを深めることができた。

▲表現力やコミュニケーション力を高めるためには，その基盤となる「言語に関する能力」を向上させることが不可欠である。そのためには，国語科で聞く力・話す力・話し合う力をしっかり身に付けた上で，全ての教科・領域で言語活動のさらなる充実を図っていくことが重要となる。今後は，論理的思考力を駆使しながら児童同士が活発に話し合う場を意図的・計画的に設定していくことを課題としたい。